

共同プロモーションで「ヨーロッパ完全復活」へ ヨーロッパ観光委員会(ETC)と日本旅行業協会(JATA)

ヨーロッパの観光局で構成するヨーロッパ観光委員会(ETC)日本支部と、日本旅行業協会(JATA)のアウトバウンド促進協議会(JOTC)欧州部会は、共同プロモーションを開始すると発表した。「ツーリズムEXPOジャパン2024」(9月26~29日)への参加や、食文化を切り口とした「美味しいヨーロッパ Gastronomy Journey」プロジェクト、さらにETC日本支部で初となる研修旅行(FAM)など、各種施策を展開していく。「ヨーロッパの完全復活」へ向け、タッグを組む両者の動きを紹介したい。

EUROPEAN
TRAVEL
COMMISSION

社団法人 日本旅行業協会
JOTCアウトバウンド促進協議会 欧州部会
Japan Outbound Travel Council Europe Subcommittee

「ツーリズムEXPOジャパン2024」に20カ国出展 ETCトップ来日、基調パネルディスカッションに参加

今年の「ツーリズムEXPOジャパン2024」には、ETC加盟20カ国がブースを出展。なかでも今年で3回目となるETCによる共同ブース「ヨーロッパパビリオン」は、16コマでの出展と過去最大となる。業界日には商談会とネットワーキングイベントを実施するほか、一般日にはスタンプラリーやクイズショーなどの一般消

費者向けイベントも計画する。また昨年に引き続きETC本部のあるベルギーのブリュッセルより、エグゼクティブディレクター・CEOのエドゥアルド・サンタンデル氏が来日、9月26日にはツーリズムEXPOジャパンの基調パネルディスカッションに参加する予定となっている。



昨年の「ツーリズムEXPOジャパン」での「ヨーロッパパビリオン」(右から4人目がJATA高橋広行会長、左隣に来日したETCエドゥアルド・サンタンデル エグゼクティブディレクター・CEO、左端にETC日本支部沼田晃一委員長)

「美味しいヨーロッパ Gastronomy Journey」で食文化の多様性を訴求 11月に発表、オーバーツーリズム解消にも期待

「美味しいヨーロッパ Gastronomy Journey」プロジェクトは、豊かな食文化の多様性をテーマに、観光局おすすめの名物料理を紹介する取り組み。単なる料理の紹介にとどまらず、その土地の伝統やストーリー



ーを紹介して、デスティネーションの魅力アピールする(本特集10ページ以降で紹介)。JOTC欧州部会とETC日本支部メンバーが料理を厳選し、11月に発表する予定。選出した料理を取り入れたツアーを会員各社が造成し、ヨーロッパ旅行商品の販売促進を図る。ロゴも新たに作成した。同プロジェクトは、2019年にJOTC欧州部

会主導で展開したキャンペーンだったが、新たにグレードアップして展開するもの。特に名物料理を旬の時期に周辺の観光地と一緒に楽しむ旅を提案することで、人気観光地を避けた新しいデスティネーションを開発、同時にオーバーツーリズム解消につなげることも可能となる。



ETC日本支部委員長 沼田晃一氏

今回のプロジェクトの狙いについて、ETC日本支部委員長の沼田晃一氏(フィンランド政府観光局日本支局代表)は、「海外に行きたいと思っただけのためには、旅の魅力の伝え方をさらに変えていかなければならない。ヨーロッパへの渡航が以前よりも長くかかってしまうことから、より深い体験、インスピレーションを感じて頂けるプロモーション展開が重要。持続可能な販売促進を推進していくためには、業界が一丸となって取り組める新しい枠組みが求められている。2025年はその第一歩。我々自身がワクワクする、そんな仕掛けを旅行業界の皆さんと一緒に作っていきたい」と述べ、キャンペーンの意義を強調した。

「ツーリズムEXPOジャパン2024」で 一般日にスタンプラリーとクイズを開催

ETCとETC加盟の各国政府観光局のブースでは、9月28日と29日の一般入場日にヨーロッパ各国の魅力を楽しむ体験できるための「ヨーロッパを巡ろう!スタンプラリー」を実施する。ETCブース「ヨーロッパパビリオン」及び各国政府観光局の独立ブースを巡ってもらうために企画するもので、専用パスポート(写真/9月28日と29日にETCブース「ヨーロッパパビリオン」で各日先着1500名に配布)に10種類以上のスタンプを集めると、各国政府観光局が提供するグッズをプレゼントする。

またETCブース「ヨーロッパパビリオン」では、スマホを使った来場者参加型のクイズ大会も実施。成績上位者にはヨーロッパ各国観光局による素敵な賞品をプレゼントする。

▼クイズの実施スケジュールなど、詳しい内容は下記ウェブサイトまで
www2.t-expo.jp/exhibitors/view/ja/46671/BtoC



「ツーリズムEXPOジャパン2024」の一般日で開催するスタンプラリーのパスポート(イメージ)

9月にフィンランドとフランスの合同FAM実施 「新しい形の共同プロモーション」他方面にも



一方、FAMは「ETC合同研修旅行」として、9月6～13日に実施。フィンランドの湖水地方とフランスのブルターニュ地方を中心に周遊する旅程で、フィンランド政府観光局とフランス観光

開発機構、フィンエアが協力。JOTC欧州部会は募集と参加者の選出を担当し、JOTCメンバーよりランドオペレーター2社、旅行会社4社、計6社(東京:4社、大阪:2社)のスタッフが参加した。

今回のFAM実施の背景について、フランス観光開発機構日本代表のジャン＝クリストフ・アラン氏は、「フランスならフランス、フィンランドならフィンランドと、それぞれの国のプロモーションを行うことが一番重要な目的ではあるが、コロナ禍を経て、新しい時代に沿った新しい形で共同プロモーションを行うことも非常に重要であり、求められている」と説明。

また、ETC沼田氏は「今回の合同FAMは初めての試みで、構想から実施まで2年かかった。

ETC本部、JATA/JOTC、各国の観光局およびDMO、フィンエアが一丸となって協力して取り組ん

だ大きなスケールのプロジェクト。必ず成功させて、持続可能な新たなスキームに仕上げて行きたい」と強調。今後の他方面への展開にも意欲を見せた。



フランス観光開発機構 日本代表
ジャン＝クリストフ・アラン氏

意見交換会やBtoB商談会も予定 旅行会社主催イベントでのセミナーも

他にもJOTC欧州部会とETCによる意見交換会や、コロナ前に旅行会社向けに実施していたワークショップ(商談会)を12月5日に実施する予定だ。

また「BtoBtoC」として、旅行会社主催イベントにも積極的に参加していく考え。ETC

沼田氏は「旅行会社とタッグを組んで渡航需要を刺激するというで、JOTCメンバーである旅行会社の皆さまには、ETCをひとつのコンテンツとして考えて頂き、エンターテインメント性を高めて頂きたい」と説明。

内容については、「従来のデスティネーショ

ンごとの紹介ではなく、テーマ別に、例えばお城、クリスマス、ワイン、夏の風物詩など、『お国自慢』を通して豊かな多様性を比較することで、参加者の好奇心を刺激させる、そのような企画を提案している」と語った。

BtoC展開としては、「美味しいヨーロッパ」のウェブサイトを作成するなど、販売促進イベントと連動して、デジタル需要も訴求していく。

若年層の新規需要開拓 日本市場の存在意義を高める取り組みも

今回の共同キャンペーンの意義について、フランス観光開発機構アラン氏は、「リピーターへの新しい提案だけでなく、新しい客層、若年層にもリーチしていかなければならな

い。その意味でもJATAとETCの連携は非常に大切だ」と指摘。

またETC沼田氏は、「業界とのパートナーシップをさらに強化しながら、ヨーロッパ市場

に日本のマーケットをアピールするというのも大きな目的」と強調。こうした取り組みは、ETC本部でも評価が高まっているとのことだ。「これだけ業界との足並みを揃えた例は、他にはないということで、日本がベンチマークになりつつある」(フランス観光開発機構アラン氏)とのことだ。

ヨーロッパ観光委員会(ETC) エグゼクティブディレクター・CEO エドゥアルド・サンタンデル氏



日本市場は長い間、欧州への海外旅行者の重要な供給源であった。COVID-19パンデミック以前は、日本は欧州への出国旅行市場で第5位にランクされていた。しかし、パンデミックの影響とウクライナで進行中の紛争により、日本の消費者は海外旅行の再開に慎重になっている。

こうした課題にもかかわらず、欧州の観光地は引き続き日本市場を重視し、日本人観光客の訪問に備えて熱心に準備を進めている。今年の「ツーリズムEXPOジャパン2024」の「ヨーロッパパビリオン」は過去最大規模となり、ヨーロッパ観光委員会(ETC)の18のメンバーおよびパ

ートナーの代表が参加し、特にキプロス、モンテネグロ、トルコなど、現在日本に事務所がない新しいデスティネーションを紹介し、日本人旅行者に新鮮な旅の機会を提供できることを楽しみにしている。

ツーリズムEXPOでの取り組みや日本でのプロモーション活動だけでなく、日本のパートナーとの協力関係も深めている。日本旅行業協会(JATA)との新たな覚書(MoU)の締結を発表できることを嬉しく思う。この覚書は、持続可能で責任ある観光の推進におけるベストプラクティスの共有と共同努力の強化に焦点を当てている。このパートナーシップを通じ、私たちは日欧双方において、より環境や社会に配慮した旅行習慣を育み、観光産業の長期的な成功と持続可能性を確保することを約束する。

日本からヨーロッパへ最大級のネットワーク 羽田から3都市へ新規就航

ANA Inspiration of JAPAN

日本の航空会社として、日本からヨーロッパへ最大級の運航便数*を誇るANA。2024年12月からは新たに羽田発の3路線が新規就航し、そのネットワークはますます充実する。羽田発のフライトを中心に、ヨーロッパ各地をカバーするANAなら、ビジネスや観光、どんなニーズにも応えてくれる。

*2024年8月1日の運航ダイヤに基づく



日本からヨーロッパ8カ国9都市へ直行便を運航*

*コードシェア便除く



Check!

羽田第2ターミナルからの国際線が拡大! 国内線との乗り継ぎが便利に



ANA国内線のフライトも発着する第2ターミナルは、国内線から国際線への乗り継ぎ時間が最短55分と利便性が向上。新規就航ヨーロッパ3路線も第2ターミナルからの出発だ。なお、羽田空港の発着ターミナルは、ANAウェブサイトの「[運航状況](#)」ページで確認できる。

ANA国内線のフライトも発着する第2ターミナルは、国内線から国際線への乗り継ぎ時間が最短55分と利便性が向上。新規就航ヨーロッパ3路線も第2ターミナルからの出発だ。なお、羽田空港の発着ターミナルは、ANAウェブサイトの「[運航状況](#)」ページで確認できる。

「ANA Wi-Fi Service」 ビジネスクラスでも無料に



2024年8月20日より、ファーストクラスに加え、ビジネスクラスでも機内インターネットサービス「ANA Wi-Fi Service」の利用が無料に。また、2024年度中にプレミアムエコノミー、エコノミークラスでも、ANA Wi-Fi Serviceを通じたテキスト通信(ソーシャルメディアやEメール等のテキストメッセージの送受信)が無料で利用できるようになる予定だ。

2024年8月20日より、ファーストクラスに加え、ビジネスクラスでも機内インターネットサービス「ANA Wi-Fi Service」の利用が無料に。また、2024年度中にプレミアムエコノミー、エコノミークラスでも、ANA Wi-Fi Serviceを通じたテキスト通信(ソーシャルメディアやEメール等のテキストメッセージの送受信)が無料で利用できるようになる予定だ。



ANA EUROPE

日本とヨーロッパを結ぶ最大のネットワーク
ヨーロッパへの翼も ANA で





©Schutzverband Dresdner Stollen eV Michael Schmidt (DML-BY)



一生に一度は行きたい！ ドイツのクリスマスマーケットと世界遺産

地方ごとの郷土色が豊かで、何度訪れても楽しみが尽きないドイツ。ロマンチックなクリスマスマーケットやバラエティに富んだ世界遺産をめぐる旅が人気を集めている。初めての人からリピーターまで満足できる、魅力あふれるデスティネーションを紹介したい。

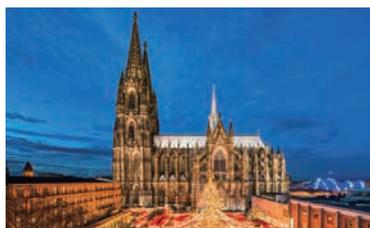
01 ドレスデン 世界最古級のクリスマスマーケット シュトレン祭りも開催

壮麗なバロック建築が立ち並ぶ美しい古都。世界最古級の市「シュトリーツェルマルクト」は、世界一高いクリスマスピラミッドの周辺にシュトレンや工芸品などが並び、古き良きクリスマスマーケットの雰囲気がいっぱい。12月のシュトレン祭りでは約3トンの巨大シュトレンが登場する。新市街にも、ギネス認定「世界一美しい乳製品の店」やポップな中庭が連なる「クンストホーフ・パッサージュ」など人気スポットが点在。観光船に乗ってマイセンやザクセン・スイスへ足をのぼすのも楽しい。



©dpix

03 ケルン 世界遺産の大聖堂など 多彩なクリスマスマーケットをめぐる



©Adobe Stock, Mapics

中央駅に到着すると、目の前で世界遺産の大聖堂が迎えてくれる。完成に600年以上かかった世界最大のゴシック建築教会を背景にしたクリスマスマーケットは圧巻の美しさ。その他「小人たちの市」「天使の市」など各所で个性的な市が立ち、ミニトレインで巡ることがができる。スケートリンクや観覧車など家族や友人同士でわいわい楽しめるアトラクションも充実。旧市街の酒場では地ビール・ケルシュを味わいたい。



Prost!

©AdobeStock, engel.ac

クリスマスマーケット

その数2500以上ともいわれるドイツのクリスマスマーケットは、伝統的なものから個性派まで多彩。ホットワインや焼きソーセージで温まりながら楽しもう。



02 ヴェルニゲローデ 魔女伝説が残るハルツ山地 おとぎの国のクリスマスマーケット



©gettyimages, KrzysztofBaranowski

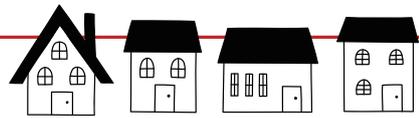
ハルツ山地の麓にある可愛い町。とんがり屋根の市庁舎と木組みの家が並ぶ広場に立つクリスマスマーケットはまるでおとぎの国のように。蒸気機関車でブロッケン山頂を目指す旅は鉄道ファンならずとも心が躍るはず。ブロッケンで魔女が集まり宴会を開く「ヴァルプルギスの夜」伝説は、ゲーテの『ファウスト』に書かれたことで有名。4月30日から夜通し祭りが開かれ、仮装をした大勢の魔女たちで賑わう。

04 エスリンゲン 異世界にタイムスリップ 中世と現代のクリスマスを楽しむ



©Esslinger Stadtmarketing & Tourismus GmbH, Maximilian Schwarz

ネッカー河畔の中世の面影が残る町。小ベニスと称される運河、天文時計のある赤い旧市庁舎、ドイツ最古のスパークリングワイン醸造所など見所が多い。木組みの家が並ぶ広場では、通常のクリスマスマーケットの隣で中世を再現した市も開催。ろうそくの灯り、テント屋台で働く人々、鍛冶屋の実演や木製の観覧車など全て中世風で異世界にタイムスリップしたかのよう。薪で焼くパンやはちみつ酒など屋台グルメも楽しみ。近郊には、シュトゥットガルトやルートヴィヒスブルクなど人気のクリスマスマーケットが点在する。



世界遺産

ドイツは2024年現在、世界第3位の世界遺産大国となっている。中世の街並みや壮麗な建築物など各地に点在する54件のなかから、街自体にも見所が豊富なおすすめをピックアップ。

05

シュヴェリーン

新しい世界遺産
シュヴェリーンのレジデンス集合群



©Adobe Stock, Anibal Trejo

2024年、メクレンブルク=フォアポンメルン州都シュヴェリーンの城と庭園をはじめとする30以上の邸宅群が新たな世界遺産として登録された。メクレンブルク公の居城として使われていた宮殿は歴史主義建築の最高傑作と評判。湖に浮かぶ優美な姿は「北のノイシュヴァンシュタイン城」とも称される。部屋数は地下や屋根裏も含めるとなんと953もあるとか。現在は一部が州議会議事堂として利用され、博物館として公開されている。城には小人の幽霊が住むという言い伝えがあり、泥棒を追い払ってくれる守護霊として人気。

07

レーゲンスブルク

2000年の歴史が息づく
旧市街とシュタットアムホーフ



©Gettyimages, Steve Daggar Photography

ドイツで最も保存状態が良い中世都市。古代ローマ人が築いた城壁や帝国議会が開かれた旧市庁舎、聖ペーター大聖堂など千にも及ぶ文化財を有する旧市街全体と対岸のシュタットアムホーフが世界遺産に登録されている。ドイツ最古の石橋のそばでは最古のソーセージ屋が営業中。ドナウの流れを眺めながら、炭火焼きソーセージと地元産のビールを堪能したい。



©RTG

06

バイロイト

バロック様式の傑作
辺境伯歌劇場



©Bayreuth Marketing & Tourismus GmbH, Ramona Schirmer

ワーグナーやリストが居を構えた音楽の都。音楽を愛した辺境伯の妃、ヴィルヘルミーネの希望で建てられた歌劇場はドイツ初のバロック様式劇場で、豪華絢爛な装飾が見るものを圧倒する。夏の音楽祭の時期は、世界中からやってくる約10万人ものオペラファンで賑わう。バイロイトを中心とするオーバーフランケン地方はドイツで最もビール醸造所が密集する地域で、豊かな自然とビールを楽しむハイキングが人気を集めている。



©Bayreuth Marketing & Tourismus GmbH, Loic Lagarde

08

アーヘン

世界遺産第一号
カール大帝の大聖堂が鎮座する温泉保養地



©Lookphotos, Travel Collection

古代ローマ時代から続く温泉保養地。アーヘンの大聖堂は、世界遺産が始まった1978年の第1期に登録された12件のひとつ。8世紀末にカール大帝によって建てられ、神聖ローマ帝国の王の戴冠式が行われたことから「皇帝の大聖堂」とも呼ばれる。バロックやカロリングなど異なる建築様式の融合が特徴で、モザイクで彩られたドームやガラスの礼拝堂は息をのむほど美しい。温泉好きなら、カルロステルメでドイツの温浴文化を体験してみたい。名物の焼菓子プリンテンはお土産におすすめ。



©Stadt Aachen, Andreas Herrmann

ドイツ
観光の国



ドイツ観光局



@GermanyTravelJP



<https://lin.ee/kL57jLZ>



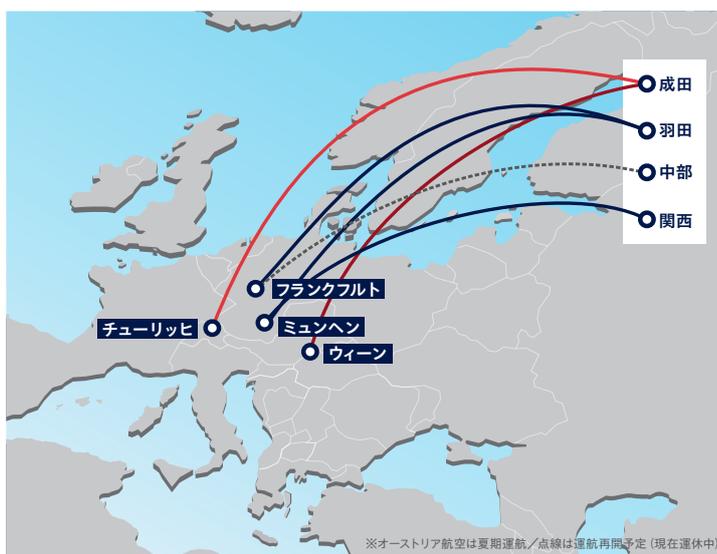
ハブ空港からヨーロッパ各地へ 利便性の高いアクセスを提供

LUFTHANSA GROUP

Network

ルフトハンザグループのネットワーク

ハブ空港であるフランクフルト、ミュンヘン、チューリッヒ、ウィーンからヨーロッパ各地へ充実のネットワークを誇る。主要都市なら複数のハブ空港から多くのフライトを運航しており、時間帯に合わせて幅広い選択肢の中からフライトを選択できる。



Service



機内インターネット「FlyNet」 メッセージングが無料に

「Travel ID」もしくは「Miles & More」会員であれば、短距離及び中距離路線の機内インターネット接続サービス「FlyNet」のメッセージングが無料で利用できる。まずFlyNetポータルにアクセスし、ログイン後、「Free Messaging」を選択する。



www.austrian.com/jp/ja/internet-on-board

www.austrian.com/jp/ja/internet-on-board



ルフトハンザ ドイツ航空 LINE公式アカウント



旅のインスピレーションから、ルフトハンザのブランドやプロダクト、サービスについてなど、さまざまな情報を配信。個々の興味に基づいてカスタマイズしたメッセージの配信や、月々のキャンペーンも実施。ぜひ旅のチャネルとして活用したい。



SWISSエアレイル 17地点へネットワーク拡大

SBB（スイス国鉄）との連携により、空港から鉄道に乗り換え、目的地へ直接アクセスできる便利なサービス。スイス国内各地はもとより、オーストリアやドイツへ、よりスムーズに早く乗り継げるほか、万が一の際は振替便の手配もあるので安心だ。



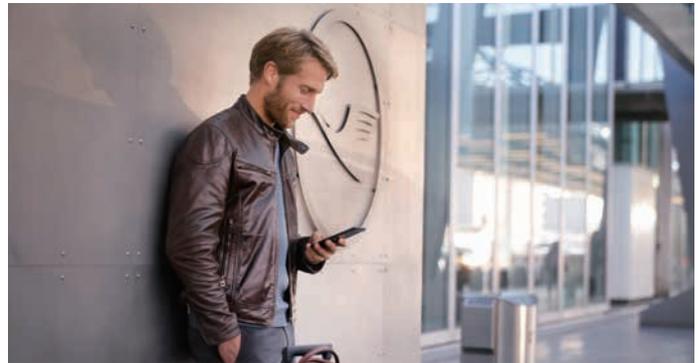
www.swiss.com/jp/ja/book-and-manage/partner-offers/swiss-airrail

Travel ID

ひとつのアカウントで、 さまざまなサービスにアクセス

ルフトハンザ グループの共通アカウントで、予約やチェックイン、機内インターネット接続やマイルの管理など、ひとつのアカウントで利用できる便利なサービス。一度のログインで好みやこれまでの履歴を反映したパーソナライズされたサービスが利用できるだけでなく、会員限定の特典やオファーを受けることもできる。

www.lufthansa.com/jp/ja/travel-id



予約時点でカーボンニュートラルの手続きが可能

ルフトハンザ グループでは、欧州内路線以外でも、フライト予約の際にカーボンニュートラルな旅行ができる3つのオプションを用意している。

- ① 持続可能な航空燃料 (SAF) の利用
- ② 認定済みの気候保護プロジェクトへの参加によるCO2排出量の相殺
- ③ ①と②の組み合わせ

SDGsへの取り組みが企業に求められる今、出張におけるCO2排出量の削減も重要な課題。予約済み、または利用済みのフライトでも、いつでもカーボンオフセットの手続きが簡単にできる。



ウェブサイト上で
カーボンオフセットの手続きが可能

オーストリア航空 www.austrian.com/jp/ja/carbon-neutral-flying

ルフトハンザドイツ航空 www.lufthansa.com/jp/ja/offset-flight

スイス インターナショナル エアラインズ www.swiss.com/jp/ja/discover/carbon-offsetting

2030年までにCO2排出量を半減 2050年までにカーボンニュートラルを実現

#MakeChangeFly

ルフトハンザ グループでは、2030年までのCO2排出量半減 (2019年比)、2050年までのカーボンニュートラル実現を目標に掲げている。実現へ向け、幅広い革新的な施策を継続的に取り組んでいる。

行っている施策の一例

- 最新型の機材の導入
- 効率的な運航業務
- 持続可能な航空燃料 (SAF) の利用
- カーボンオフセット
- インターモダリティ
- 廃棄物とプラスチックの削減



さまざまな交通手段を組み合わせるインターモダリティ (イメージ)





美味しいヨーロッパ



Gastronomy Journey

食から広がるヨーロッパの多彩な魅力

歴史や文化、自然環境など、多彩な表情を見せるヨーロッパ各国には、その土地ならではの旬の食材、名物料理やスイーツ、また食にまつわるユニークなお祭りなどが存在する。有名観光地に限らず、まだ知られていない地域にも足を運び、その時期ならではの旬の味覚をぜひ堪能したい。また、その味が生まれた背景を知ることによって、ヨーロッパの多様性や文化の奥深さをより一層感じることができるだろう。ここでは、ヨーロッパ各国の観光局が推薦するおすすめの旬の食材、名物料理やスイーツ、食にまつわるユニークなお祭りなどを紹介する。



ポルトガル Portugal

ポルトガル政府観光局
www.visitportugal.com/ja

おすすめ **イワシの炭火焼** | 場所 **リスボン**

イワシの炭火焼は、ポルトガル全土で一般的なメニューであり、ポルトガル人のソウルフードの一つである。特にリスボンでは、6月13日(12日が前夜祭)に開催される聖アントニオ祭で食される伝統的な料理として知られている。

6月はイワシ漁が解禁となり、旬の時期であるため、この祭りは別名「イワシ祭り」とも呼ばれ、リスボンの町中はイワシのモチーフで溢れる。庶民的なレストランやビーチテラスでは、イワシの炭火焼が味わえる。イワシに粗塩を振って炭火で焼き、ポルトガル産オリーブオイルを垂らせばできあがり。こふき芋が添えられることが多く、日本人には懐かしい味として人気が高い。

www.visitportugal.com/ja/node/196876



©Duarte Algarve Promotion Bureau



フランス France

フランス観光開発機構
www.france.fr/jaおすすめ **ブレス鶏** | 場所 **ブル・カン・ブレス (オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地方)**

ブレス鶏は、赤いトサカ、白い羽、青い脚というフランス国旗に似た特徴を持ち、フランスを代表する高級食材である。1957年には原産地呼称制度(AOC)が制定され、厳しい条件のもとで育てられている。この鶏は脂肪が多く、皮が繊細で美味とされ、美食家たちに絶大な人気を誇る。また、毎年12月には「ブレス栄光の3日間」というオークションが開催され、この地の鶏の出来を評価するイベントとして知られている。ブル・カン・ブレスには、フランス人が最も好きな建物のひとつとして知られるブルー王立修道院があり、観光地としても人気が高い。パリからブル・カン・ブレスまで鉄道で約2時間半。

www.bourgenbressedestinations.fr

©Tom Fournié



モナコ Monaco

モナコ政府観光会議局
monacotabi.jpおすすめ **ナショナルデー (11月19日) のタラのシチュー** | 場所 **ラ・コンダミーヌ区**

モナコのナショナルデーには、ラ・コンダミーヌ区の市場で地元の特産物が並び、試食が楽しめる。特に注目なのが、地元の人々が大鍋で手間をかけて作るタラのシチュー、ストックフィッシュ・ア・ラ・モネガスクだ。このシチューは、干し鱈をオリーブオイル、玉ねぎ、ニンニク、黒オリーブ、ハーブ(ローズマリーとセイボリー)、白ワインと煮込んだ料理で、ぜひ一度味わってみたい。

ラ・コンダミーヌ区は、豪華なクルーザーが停泊する湾岸地区で、美しい海の景色が広がる。古くからモナコ公国の一部として、重要な交易と経済活動の中心地として栄えた歴史があり、市場だけでなく、モナコの歴史や文化を感じられるグレース・ケリー広場、美しいヨットが並ぶエルキュール港が大きな見どころだ。 monacotabi.jp



スペイン Spain

スペイン大使館観光部
www.spain.info/jaおすすめ **イベリコ豚の生ハム** | 場所 **サラマンカ、バダホス、ウエルバ、コルドバ**

ホテルの朝食やバルでのおつまみ、レストランでの前菜など、さまざまなシーンで味わえる。現在、欧州からの肉製品の持ち込みが禁止されているため、スペインを訪れた際にはぜひ味わいたい。サラマンカ県ギフエロ、ウエルバ県ハブーゴ、コルドバ県ロス・ベドロチェス、バダホス県デヘサ・デ・エクストレマドゥーラの4つの原産地呼称があり、それぞれの地域では製造過程の見学や試食ができる。またバダホス県のモネステリオでは、生ハム博物館があるほか、9月7日に「生ハムの日」が開催され、試食やカッティングコンテストなどのイベントが楽しめる。

www.spain.info/ja/karendaa/monesuterio-namahamu-hi

©Turespana



ドイツ Germany

ドイツ観光局

www.germany.travel

おすすめ シュパーゲル(白アスパラ) | 場所 ドイツ全土

「白い金」と称され、ドイツで春限定の旬野菜として愛されている。4月中旬からメニューに登場し、6月24日の聖ヨハネの日までの期間限定で味わえる。日本で見かける緑のアスパラガスよりも太く長く、「野菜の王様」とも呼ばれる。茹でたシュパーゲルにオランダソースやバターソースをかけ、肉やジャガイモを添えるのが一般的な食べ方。クリーミーなシュパーゲルのスープもぜひ味わいたい。シュヴェツィンゲン(南西ドイツ)やベーリッツ(ベルリン郊外)、ニンブルク(ハノーファー郊外)が産地として有名で、各地でフェスティバルも開催される。また、産地を結ぶ「シュパーゲル街道」も存在する。

beelitz.de/spargelfest

©DZT, Jens Wegener



スイス Switzerland

スイス政府観光局

www.myswiss.jp

おすすめ ピッツォケリ(そば粉パスタ) | 場所 グラウビュンデン地方南部

スイスでは、古くからこの地域の定番料理として知られ、サン・モリッツ周辺のロマンシュ語圏やイタリア語圏のポスキア・ヴォ谷のレストランなどで味わえる。この地域は山深く、独自の保存食が発達し、ピュンドナー・フライッシュ(ドライビーフ)、エンガディーナー・ヌストルテ(日持ちするタルト)、また栄養価の高い栗を使った料理などが人気だ。食文化だけでなく、ドイツ語、ロマンシュ語、イタリア語が入り交じる複雑な地域で、建築や文化もユニーク。サン・モリッツと周辺に点在するエンガディンの谷は、カラフルなパステルカラーのステラフィット紋様による建築が特徴的だ。

www.myswitzerland.com/ja/experiences/food-and-wine/pizzoccheri

イタリア Italy

エニット・エッセ・ピー・ア イタリア政府観光局

www.italia.it/en

おすすめ 白トリュフ(アルバの白トリュフ祭り) | 場所 アルバ(ピエモンテ州)

アルバの白トリュフ祭り(国際見本市)は、イタリアで最も古い祭りのひとつで、毎年10月初旬から12月初旬の開催(2024年は10月12日から12月8日まで)。会場となるアルバの歴史地区では、白トリュフの展示や販売が行われる。特にユネスコ世界遺産「ピエモンテの葡萄畑の景観」に登録されているランゲ・ロエロとモンフェッラートから直送される白トリュフが人気。11月13日のオークションの前には、多くのグルメ愛好家が訪れ、ワインや地元の特産品も楽しめるイベントで賑わう。テイスティングを楽しんだ後は、中世の面影を色濃く残したアルバの街散策もおすすめ。アルバへは、トリノ空港から列車で約2時間。

www.fieradeltartufo.org/en



チェコ Czechia

チェコ政府観光局
www.visitczechia.com/ja-jp

おすすめ トヴァルーシュキ(チーズ) | 場所 オロモウツ(モラヴィア地方)

凝固されていない酸味のあるチーズカードを二段階熟成して作られるチーズで、強い香りと濃厚な味わいが特徴。その歴史は15世紀までさかのぼり、欧州の原産地名保護を受けている。低脂肪かつ高プロテインで健康的な食品としても評価が高い。パンに乗せたり、オイル漬けやフライドチーズとして味ったり、ビールとの相性も抜群。オロモウツは、聖三位一体柱などユネスコ世界遺産に登録された建造物やバロック建築が点在する歴史的な街で、冬はクリスマスマーケットで賑わう。プラハから電車で約2時間半、車で約3時間半。

www.visitczechia.com/ja-jp/news/2024/02/n-controversial-czech-cuisine



ハンガリー Hungary

ハンガリー観光庁
visithungary.com

おすすめ ホルトバージパラチンタ(ほぐした仔牛や鶏肉のクレープ) | 場所 ハンガリー全土

薄く焼いたパンケーキに煮込んだ肉を包んだ料理。1958年のブリュッセル万国博覧会のためにハンガリーのシェフが考案した。フィリング(詰め物)には子牛や鶏肉が使われ、シチューのように煮込んだ肉を細かく刻んで包み、上からソースをかける。サワークリームを添えるのが特徴で、優しい味が魅力。料理名とは直接関係ないが、ホルトバージはブダペストの西にある世界遺産の国立公園。デブレツェンとエゲルの間にあり、日本では珍しい水平線や馬術ショーなどが楽しめるほか、野生の馬も生息している。



オーストリア Austria

オーストリア政府観光局/駐日オーストリア大使館観光部
www.austria.info/jp

おすすめ ワイン(ウィーン・ハイキングデー) | 場所 ウィーン

毎年秋にウィーンで開催されるこの人気イベントでは、歴史的建造物が建ち並ぶウィーンの美しい街並みを眺めながら、高台のブドウ畑を巡り、ワイナリーでワインの試飲が楽しめる。2024年は9月28日と29日の開催。自然環境に恵まれたウィーンは、世界で唯一、商業的な規模でワインを生産している首都で、600ヘクタールのブドウ畑が広がり、約170軒のブドウ栽培農家がある。訪れる人々は、秋の爽やかな風を感じながらワインとハイキングを堪能できる。コースは4つあり、イベントに限らず通年で楽しめる。

www.wien.info/en/dine-drink/wine/wine-trail-366076





フィンランド Finland

フィンランド政府観光局
www.visitfinland.com/ja

おすすめ トナカイ肉のステーキ | 場所 ラップランド地方(北極圏)

ラップランド地方では、ステーキやスモークミートなど、トナカイ料理が有名。特に夏の白夜の時期は、太陽が沈まない特別な体験と、広大な自然を楽しむことが可能。冬のオーロラの時期を避けることで、ゆっくりと滞在できるメリットがある。また、この地に住むサーミ族の文化体験、ハイキングやベリー摘み、サウナなどのアクティビティを通じて、フィンランドのサステナブルなライフスタイルを体感できる。地元の人たちのホスピタリティーも心地良さを与えてくれるだろう。ヘルシンキ国際空港からラップランド地方の3空港(ロヴァニエミ、キッティラ、イヴァロ)へ飛行機で約1時間15～30分。

www.laplandhotels.com wildernesshotels.fi santashotels.fi



©Julia Kivelä & Visit Finland



エストニア Estonia

エストニア政府観光局
www.visitestonia.com/jp

おすすめ カマ | 場所 エストニア全土

カマ(Kama)とは、大麦またはオーツ麦・ライ麦・エンドウ豆を、粉碎し粉にしたもの。エストニアの国民食と言われるほど、エストニアならではのスーパーフードとして知られている。ケフィアやヨーグルトに、カマと砂糖を入れて飲むのが一般的で、写真はカマクリーム(Kamavaht)と呼ばれるカマをクリーム状にして食べるデザートで、ゼリーに添えて提供されている。タリン市内の伝統料理を提供しているレストランなら食べることができる。素材として欲しい方は、大抵のスーパーマーケットで手に入る。



Photo: Johannes Holmoja, Visit Estonia



ラトビア Latvia

ラトビア投資開発庁
www.latvia.travel/ja

おすすめ グレイピースとベーコン | 場所 ラトビア全土

ラトビアの国民食であるグレイピース(灰色エンドウ豆)は、種子を乾燥させたもので、ラトビア全土で生産されている。18世紀から続く栽培の伝統があり、EUの保護産品にも登録されている。民間伝承では富と活力を象徴する食材とされており、特に冬に人気のあるグレイピースとベーコンの料理は、ボリューム満点で食べ応えがあり、体の芯から温まり、冬を乗り切るエネルギーが湧いてくるだろう。クリスマスの定番料理としても親しまれている。





リトアニア Lithuania

リトアニア政府観光局
www.lithuania.travel/jp

おすすめ キビナイ | 場所 トラカイ

キビナイはトラカイの名物料理で、14世紀末にクリミアから移住したカライム人によって伝えられた。カライム人の末裔は今も独特な文化と風習を守り、トラカイの湖畔にはキビナイを楽しめるレストランが建ち並び、料理作りのワークショップも体験できる。トラカイはビリニュスから西に位置する湖水地方の自然豊かな町。14～15世紀にはリトアニアの首都が置かれた歴史的な地で、赤レンガのトラカイ城は人気のフオトスポット。夏にはジャズフェスティバルやコンサートが開かれ、冬には湖が凍りその上を歩くことができる。ビリニュスからは電車やバス、車で約30分。

www.trakai-visit.lt/en

ポーランド Poland

ポーランド政府観光局
www.poland.travel

おすすめ ザピェカンキ | 場所 クラクフのカジミェシュ地区

バゲットのようなパンにチーズ、キノコ、ハム、トマトソースなどを載せてオープンで焼く、ピザの原型とも言える簡素で美味しい料理。1970年代に安価な軽食として誕生し、ストリートフードとして親しまれてきた。クラクフのカジミェシュ地区には、昔ながらのザピェカンキを味わえる「Okraglak Kraków (オクロングラク・クラクフ)」というフードコートがある。同地区は旧ユダヤ人街として知られ、ユダヤ人墓地やシナゴーク、シンドラー博物館があり、おしゃれなカフェやギャラリーが集まるクラクフの文化と芸術の中心地でもある。



画像提供:ポーランド政府観光局



ギリシャ Greece

ギリシャ政府観光局 (Greek National Tourism Organization)
www.visitgreece.gr

おすすめ イェミスタ | 場所 ギリシャ全土

イェミスタは、トマトやパプリカなどの野菜に米、ハーブ、時にはひき肉を詰めた風味豊かなギリシャの伝統料理。詰め物にはタマネギ、ニンニク、バセリ、ミントなどが使われ、野菜に詰めた後、柔らかくなるまで焼く。焼き上がったイェミスタは、ジャガイモやフェタチーズと共に熱々で提供されることが多い。野菜の甘みとひき肉のうまみを吸った米がふっくらとして美味しく、オープンさえあれば日本の家庭でも簡単に作れるヘルシーな一品。年間通して食べられるが、野菜が美味しい夏は特におすすめ。

www.visitgreece.gr/experiences/gastronomy/traditional-cuisine/veggie_suggestions_while_in_greece/



今年のツーリズムEXPOジャパン スペインブース (R-065)には、日本市場の回復を見据えて、スペイン各地からDMO、現地オペレーターやホテルなど、16の観光団体が出展している。同国の魅力あふれるデスティネーションを知り、旅行のヒントを得る絶好の機会だ。10月からはマドリドへの直行便が再開。ぜひこの機会に、スペインブースを訪れ、魅力的な旅行プランを検討してほしい。



ツーリズムEXPOジャパンで見つける スペイン観光の新潮流

世界遺産が目白押し! 16の団体が勢揃い

01

アンダルシア州観光局

<https://www.andalucia.org>



南スペインに位置するアンダルシア州は、国内で最も多くの人口を抱え、その専有面積はスペイン国内二位。セビージャ、グラナダ、コルドバ、マラガなど代表的な観光都市があり、数多くの歴史的建造物と温暖な気候に恵まれたスペイン屈指の観光地。フラメンコや白い村などスペインの魅力が詰まった地域。



コルドバ市観光局 <https://www.turismodecordoba.org>

アンダルシア州のコルドバはキリスト教とイスラム教が融合した、世界唯一の建造物メスキータを擁する古都。5月に開催されるパティオ祭りには日本人観光客にも人気。



マラガ市観光局 <https://visita.malaga.eu/en/>

アンダルシア州のマラガは、南スペインの空の玄関口。活気あふれる文化フェスティバルや美しい海岸沿いの景観など、あらゆる旅の嗜好に応える多彩な体験を提供。ピカソの故郷で、二つのピカソ美術館がある。



グラナダ県観光局 <https://www.turgranada.es>

アンダルシア州のグラナダは、沿岸部のビーチや、シエラ・ネバダ山脈のスキーといった海と山のリゾート地。またグラナダ市内には「アルハンブラ宮殿とヘネラリーフェ庭園」もあり、美食、文化などの魅力あふれる場所。



グラナダ市観光局 <https://turismo.granada.org>

市内の主な観光施設の入場券が含まれた「グラナダ・カード」や2025年開催の「フラメンコ・ビエナーレ」など文化イベントをご紹介します。



02

アラゴン州観光局

<https://www.turismodearagon.com/ja/>



スペイン北東部、マドリドとバルセロナ、また北スペインと南フランスを結ぶ交通の要所。ピレネー山脈とロマネスク建築の宝庫の「ウエスカ県」、ピラール大聖堂やバル巡りが楽しめる「サラゴサ県」、世界遺産ムデハル建築群と美しい村アルバラシが魅力の「テルエル県」と、個性豊かな3つの県で構成されている。



03

バスク州観光局

<https://www.turismo.euskadi.eus/ja/visitbasquecountry/>

バスク自治州

バスクの食文化は世界最高峰と称されるほど。ここは美食の地であり、美味しい食事を堪能することは、誰もがこの地で楽しめる贅沢。美食体験だけでなく、緑の山々と青い海が織りなす風光明媚な景色や、世界的な建築家が手掛ける建築や美術館も見逃せない。また、今シーズンもサッカー観戦も訪れる十分な理由になるだろう。



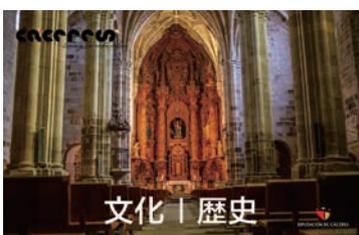
04

カセレス県観光局

<https://www.instagram.com/visiteuskadi/>



スペインの内陸部、ポルトガルとの国境に位置するカセレス県。大航海時代には重要な交易地として発展してきた土地で、中世の面影を感じることができる。カセレス市の旧市街、そしてサンタ・マリア・デ・グアダルーペ王立修道院は世界遺産に登録されている。



文化 | 歴史

05

カタルーニャ州政府観光局

<https://www.catalunya.jp>



多彩な歴史・文化遺産と数多くのユネスコの世界遺産を擁する魅力的な観光地。2025年には世界ガストロノミー地域に選定されるなど、ガストロノミーツーリズムにも注力。またリジェネラティブな観光モデルを実現し、サステナブルな観光地としての地位を強化している。



06

エン・デスティーノ ピレネー山脈と北スペイン専門旅行会社

<https://endestino.jp/>



スペイン北東部・アラゴン州のウエスカ県にあり、北スペインとピレネー山脈の手配を専門にする現地旅行会社。団体旅行・個人旅行・インセンティブなど、現地旅行会社ならではの丁寧な手配を心がけている。ブースでは『ピレネー山麓の美しい村』の著者で公認ガイドの細川桜氏のご案内。



07

ガリシア州観光局

<https://www.instagram.com/turismodegalicia/>



スペイン北西部に位置するガリシア州は、大西洋ならではの独自のライフスタイルを持ち、美しい自然景観と、サンティアゴ巡礼の道と結びついた伝統や文化が特徴。継承されてきた伝統と緑豊かな風景、美しい街並みに加え、驚くほど種類が豊富な魚介類を使った郷土料理も魅力。



08

イベリア航空

<https://www.iberia.com/>



この秋、スペイン旅行に大変革が!旅行業界が待ち望んでいたイベリア航空のスペイン直行便が、10月27日に再開。最新鋭のエアバス350-900には、「ビジネスクラス・スイート」が導入、新たにプレミアムエコノミーが設定されるなど、より質の高いスペイン旅行を提供する。



09

メリアホテルズ インターナショナル

<https://www.melia.com/ja>

MELIÀ HOTELS INTERNATIONAL

1956年創業のスペイン・マヨルカ島で創業した、国内141のホテルを擁するスペイン最大手のホテルチェーン。また、欧州15カ国をはじめアジア、中東、中南米などグローバルに展開している。B2Bマーケット向けの予約サイト「MELIÀ PRO」は、スムーズなグループ予約を実現している。



10

サンティアゴ・デ・コンポステラ 観光局

<https://www.santiagoturismo.com>



ガリシア自治州の州都であり、サンティアゴ巡礼の道で知られるサンティアゴ・デ・コンポステラは、世界で最も有名なスピリチュアルなデスティネーションの1つ。ユネスコの世界遺産に登録されている旧市街は、国際空港と近代的なインフラが整備された人気のデスティネーション。



11

トラベラーズ・ オペラドール・トゥリストイコ

www.travelersonline.es



トラベラーズ・オペラドール・トゥリストイコはマドリッドを拠点に、スペイン全土とヨーロッパのシェンゲン協定国に支店を置いている。つまり、ヨーロッパ各地の市場を熟知しており、ヨーロッパにおける広範なネットワークと提携関係を築いている。トラベラーズ・オペラドール・トゥリストイコは、国内外B2Bツアーオペレーター最大手の一つで、ホテルやアパートメント、フライト+宿泊、周遊ツアー、パッケージパッケージを販売し、世界中の旅行会社との取引実績がある。



12

カスティージャラ・ マンチャ州観光局

<https://www.instagram.com/turismocastillalamancha>



VISIT CASTILLA-LA MANCHA

カスティージャラ・マンチャ州は、世界的な名作『ドン・キホーテ』の舞台となった地域。風車が点在する広大な平原や中世の面影を伝える古城などの名所がある。マドリッド州に隣接する州。また旧市街全体が世界遺産に登録された街、トレドでは、キリスト教、イスラム教、ユダヤ教の文化が融合した独特の雰囲気を楽しめる。





色鮮やかな民族衣装 (ウォヴィチ)



中部ポーランドで色鮮やかな 伝統行事と文化を体験する

ヨーロッパの中心に位置するポーランド。この国には古くから受け継がれてきた伝統行事や文化が今も息づいている。なかでも5月から6月にかけて行われるキリスト教の祝日である聖体節は、ユネスコの世界無形文化遺産に指定されており、各地で趣向を凝らした行事が催される。色鮮やかな花々や民族衣装で彩られた装飾やパレードは、訪れる多くの人々を魅了する。首都ワルシャワからもアクセスしやすい中部ポーランドで、心躍る伝統行事と文化をぜひ体験したい。



聖体節を祝うため、村の人たちが
総出で道に花を敷き詰める (スピチミェシュ)

01 スピチミェシュ

ナポレオンを歓迎するために敷き詰められた 美しい花道がフォトジェニック!



ウッチの郊外にある小さな村。ポーランドの聖体節を祝う伝統行事の中で最もユニークで、ぜひ足を運んでみたいのが「スピチミェシュの花の道」だ。

元はこの地にナポレオン率いるフランス軍が進軍するという噂を聞きつけた村人がナポレオン

を歓迎するために総出で花の道を作ったのがはじまり。結局、ナポレオンは訪れなかったが、やがて聖体節を祝うための花の道となった。

花の道は、聖体節の日の午前中から昼頃にかけて飾り付けが行われ、17時に聖体行進の列が教会から出て花の道の上を歩いていく。そのため、花の道の見学は13～16時頃がベスト。

アクセス ウニェユフから3キロ。タクシーが徒歩、レンタサイクルで利用。
聖体節は混み合うので、徒歩で来る人が多い



02 ウニェユフ

温泉保養地でリラックス! 古城ホテルの滞在も

温泉保養地として知られる人口3000人ほどの町。テルマと呼ばれる温泉プールや温泉を利用した機能障害改善のための治療施設が充実している。レンガ造りの古城ホテル(写真)も併設しているので、滞在もおすすめ。温泉の熱は、住宅の暖房にも利用されている。ワルシャワから車で約2時間とアクセスが良いため、家族連れにも人気があるリゾート地だ。

アクセス ウッチからバスで1時間半



繊維産業で栄えた芸術文化都市、イベントが充実



かつての工場が最新スポットに様変わり

ポーランド第3の都市で、19～20世紀初頭に繊維産業で繁栄し、当時最先端のアール・ヌーヴォー様式で建てられた経営者たちの絢爛豪華な大邸宅が今に残っている。かつての工場や倉庫、集合住宅は、ショッピングセンターやホテル、レストランやギャラリーなどに生まれ変わり、ポーランドでも最新トレンドを発信する町として注目を集めている。

また、芸術文化都市として、年2回の「ポーランド・ファッション・ウィーク」や、ウッチの文化を形成したポーランド、ロシア、ドイツ、ユダヤの4つの文化をはじめ、多様な文化を体験できる「ウッチ多文化フェスティバル」（2024年は10月上旬開催）など、イベントが充実。

他にも、ポーランド唯一の国立映画大学であるウッチ映画大学は、アンジェイ・ワイダやロマン・ポランスキなど、世界的に著名なポーランド出身の映画監督を輩出。映画博物館もあるので、映画ファンなら訪れたいスポットだ。

アクセス ウォヴィチから鉄道で約1時間15分、ワルシャワから鉄道で約1時間20～40分、バスで約2時間



この地で活躍したユダヤ系ポズナンスキ家の邸宅。「ポズナンスキ宮殿」と呼ばれ、フレンチ・ルネサンス様式の外観に、内部はネオ・バロック様式やアール・ヌーヴォー様式のデザインを取り入れている



パブリックアートも至るところに



プロジェクション・マッピングが幻想的な光景を作り出す光と音の祭典「ライト・ムーブ・フェスティバル」（毎年9月下旬）も人気

カラフルなポーランド・フォークロアの町

鮮やかな色彩が印象的なポーランドのフォークロア（民俗芸術）の町。聖体節を祝うパレードでは、カラフルでかわいらしい伝統衣装を身にまとった地元の人達が厳かに行進し、華やかな装飾が施された町を練り歩く。

植物などをモチーフとした可愛い刺繍や切り絵も要チェック。繊細で細やかなデザインは、すべてハンドメイド。刺繍を施した民族衣装を身にまとった人形などもポーランドならではののおみやげとして最適。地元なら比較的安価で手に入る。

アクセス ワルシャワから鉄道で約50分



聖体節を祝うパレードは10時にスタート

ポーランドの旅の拠点、世界遺産の旧市街など、魅力あふれる首都

ポーランドの首都として、日本からの直行便が飛び、ポーランドの旅の拠点となるだけでなく、第二次世界大戦後の攻撃で破壊された街並みを忠実に再現したことで世界遺産に指定された歴史地区（写真）をはじめ、音楽家ショパンゆかりの地が数多く点在するなど、見どころが充実。



（写真）をはじめ、音楽家ショパンゆかりの地が数多く点在するなど、見どころが充実。

旅のヒント



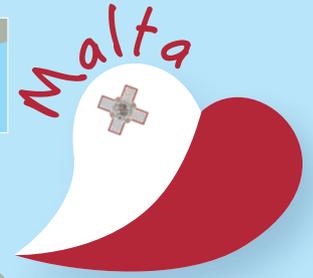
17時に聖体行進がスタート（スピチミェシュ）

ウォヴィチとスピチミェシュの聖体節を両方ともツアーに入れる場合、ウォヴィチの聖体行進は午前中に行われるため、ウォヴィチには9時半までに到着するのがベスト。その後、教会でのミサ終了後に聖体行進がスタートする。正午前にはウォヴィチを出て、ウニェユフへ移動し、ウニェユフで昼食後に、スピチミェシュに向かうのがおすすめだ。

写真提供:ポーランド政府観光局

地中海性気候の温暖な気候に恵まれ、海上交通の要衝として栄えた文化的魅力や歴史遺産の宝庫として知られる地中海の宝石、マルタ島。年間を通じて魅力的な島ではあるが、イベントや催しの季節にはマルタの華やぎが倍増する。そんなマルタの注目のイベントを紹介する。

通年で様々な イベントが開催されるマルタ 旅の目的にいかがですか？



EVENT 01

第40回マルタ国際マラソン

Malta Marathon

2025年 2月23日開催予定

ヨーロッパの多くの国々がまだ冬のさなかの2月最終日曜日、ヨーロッパで一番早く開催されるマラソン大会とあって各国から多くの参加者が集まる。この時期のマルタは気温15~19度という最適な気候で、ランナーにとっても嬉しい。

コースは古都イムディーナをスタートして標高差200mを下るダウンヒルの片道コースで、ゴールは海拔0mの港町、スリーマにあるフェリーターミナル。途中、ヨーロッパで3番目に大きいドーム型教会「モスタドーム」やローマ時代の水道橋などの観光スポットを眺めながら走ることができる。

競技種目はフルマラソン、ハーフマラソン(21.097km)、Endoウォーカソン(同)の3種目。2025年大会はスポーツエントリーにて受付中。



EVENT 02

マルタカーニバル

Malta Carnival

2025年 2月28日~3月4日開催予定

マルタが最も華やぐイベントの一つがマルタカーニバルだ。島民の9割以上が敬虔なカトリック教徒のマルタ島では最も重要な宗教的行事で、毎年2月下旬に島内の町や村をあげて5日間にわたり催される。ヨハネ騎士団がマルタ島の領有権を獲得した1535年以来、600年近い歴史があるカーニバルであり、首都ヴァレッタのカーニバルはとくに盛大だ。

当日はヴァレッタのメインストリート、チーム別にテーマを決めた巨大な山車やブラスバンド等がパレードする。それだけでなく見学客も仮装姿で一緒に行列に参加できるのはマルタならではののびやかな楽しみ方だ。通りは色とりどりの山車や仮装衣装で埋め尽くされ、



プリニョラータ



色彩にあふれた催しは見応え十分。

カーニバル中だけ期間限定で販売される、とんがり帽子型の伝統的ケーキ「プリニョラータ」が味わえるのもこの時期ならではのお楽しみだ。

マルタ国際花火大会

Malta International Fireworks Festival

2025年 4月開催予定

マルタ島とゴゾ島を舞台に開催するマルタ国際花火大会は、マルタ島のみならず近隣各国の花火工房が参加する国際色豊かなイベント。毎年4月に1週間にわたって開催される。

音楽に合わせて花火が打ち上げられ、夜空を彩る花火の美しさと音楽の調和が最も印象深かった花火には賞が授与される。

マルタの花火の歴史はヨハネ騎士団の時代までさかのぼり、騎士団や修道院などが重要な祝祭の際に花火を打ち上げたことが起源となっている。マルタには花火工場が35カ所ほどあり、マルタの花火はヨーロッパの人々を楽しませてきた。

日本の繊細な花火とは違い、ダイナミックな花火を楽しむことができる。島全体が小さいこともあり、島内どこからでも花火の音が聞こえ、臨場感を楽しめる。



ミシュランガイドで マルタ初の2つ星店を紹介

ミシュランガイド・マルタはこのほど2024年版を発表し、マルタのレストランとして初めて2つ星を獲得したレストランを紹介している。今回の選考で初の2つ星を獲得したのは、シェフのサイモン・ローガン氏が首都ヴァレッタに出店している「IONハーバー」。ローガン氏は英国の「ランクルーム」でも3つ星を獲得している。



同店は地元の野菜や地中海の魚介を中心に、世界の食材やアジア料理のエッセンスを組み合わせた深い味わいを提供している点が評価された。

また、同最新版では「Rosamiレストラン」が1つ星を獲得。ビブグルマン部門では「レストランAYU」が新たに掲載された。これによってマルタの掲載レストランは2つ星1軒、1つ星6軒、ビブグルマン掲載店5軒、推奨レストラン28軒(新規5軒を含む)の計40店となった。グループ予約も可能。

映画『ねこしま (原題: CATS OF MALTA)』が 2025年1月10日から日本公開へ

人口の2倍に相当する100万匹の猫が暮らすと言われ、猫の楽園とも呼ばれるマルタ島。この島の猫文化に迫ったドキュメンタリー映画『ねこしま (原題: CATS OF MALTA)』が、日本でもヒューマンラストシネマ有楽町、シネ・リーブル池袋、新宿武蔵野館ほかで公開となる(©2023 Nexus Production Group Ltd. All Rights Reserved.)。



マルタでは猫が公園のベンチで昼寝をしたり、カフェでおこぼれをねだる姿が普通に見られ、人と猫の共生が文化として根付いている。そんな猫文化を、地元の猫好きや芸術家、猫ボランティアなどへのインタビューを通じて、その功罪を含めて浮き彫りにしたのがこのドキュメンタリー映画だ。

映画は猫と社会の関係性を明らかにしているだけでなく、愛らしい猫たちと美しい島の景色をふんだんに散りばめ、映像としても楽しめる点が魅力的だ。

マルタの新しい翼、KM MALTA AIRLINES



国営航空会社のKM マルタ航空が2024年3月31日に就航。マルタ国際空港を拠点にヨーロッパ

17都市へ週280便を運航している。日本総代理店ではFITとグループ(10名以上から)の予約を受け付けており、大型MICEやチャーター便手配にも対応する。3月30日で運航を終了したマルタ航空に代わる新たなフラッグシップキャリアのKMマルタは、フルサービスキャリアとしてフレンドリーで思いやりが感じられるサービスの特徴としている。 日本総代理店連絡先 info@mtajapan.com



マルタ観光局HP、各SNSサイトにて様々な情報を発信しています。ぜひフォローをお願いします!



VisitMalta

www.mtajapan.com



Instagram



Facebook



X



YouTube



ドリームライナー(ボーイング787-9型機)

日本とヨーロッパ120都市を快適・便利に結ぶ 就航国数No.1のターキッシュ エアラインズ

豊富な座席数を提供、多彩な旅行需要に対応



ターキッシュ エアラインズといえば、言わずと知れた就航国数世界1位の航空会社であり、日本とヨーロッパを結ぶエアラインとしての存在感を高めている。ヨーロッパの主要都市だけではなく、地方都市へもハブ空港のイスタンブールから国際線で直接アクセス可能である点も使い勝手が良い航空会社として、ますます人気が高まっている理由であるといえそうだ。

イスタンブールの地の利をフル活用 日本・ヨーロッパ間を無駄なく移動

ターキッシュ エアラインズのハブであるイスタンブールは、日本から一番飛行時間の短い*ヨーロッパ大陸にある空港。さらには、ヨーロッパの各都市へは、イスタンブールから1時間~4時間程度の飛行で到達可能な場合がほとんどで、日本からヨーロッパへのアクセス方法として、イスタンブール経由が目ざされている。最終目的地までのトータル所要時間を、他のヨーロッパのハブ空港や中東のハブ空港を経由する旅程と比べてみても、その差は歴然だ。さらに、シェンゲン域外であるイスタンブールでは、乗り継ぎの際のターミナル移動や入域審査も不要であることから、乗り継ぎ時のストレスが緩和されるのもうれしい。

*2024年9月現在

日本路線にも安定した航空座席を供給 東京、大阪からイスタンブールへ3路線運航

日本路線においては羽田、成田、関西の3空港の路線を運航中。日本からの多様な旅客需要に対応するため最新かつ大型の機材を導入し、安定した航空座席を用意するとともに、充実したサービスを提供している。

成田、関西線はボーイング787-9型機を使用。座席数はビジネスクラス30席、エコノミークラス270席の計300席となっている。羽田線はボーイング777-300ER型機を使用している。座席数はビジネスクラス49席、エコノミークラス300席の計349席を用意している。

ヨーロッパ全体を面でカバーすることが出来る 圧倒的なネットワーク力

ヨーロッパにおけるターキッシュ エアラインズのネットワーク力は、その圧倒的な就航都市数が物語っている。多くの国を面でカバーできる程の実力で、他社に頼らない輸送を実現する。例えば、ドイツでは14都市、フランスは7都市、さらにイタリア12都市、スペイン5都市に就航しているなど、わざわざ各国の国内線や鉄道に乗り換える必要がない旅程もターキッシュ エアラインズのネットワークをフル活用することで可能となっている。こうして、多くの国を「面」でカバーすることができるのが利点の1つであるといえるだろう。

*就航都市数は24年9月現在のもので、季節運航便や情勢不安等による運休便を含む

運航スケジュール

成田-イスタンブール *TK051:12月4日からは月・火・木・金・日曜日運航
*TK050:12月3日からは月・火・木・金・日曜日運航

運行日	便名	出発地	出発時刻	到着地	到着時刻
毎日*	TK051	成田	10:15	イスタンブール	18:05
	TK050	イスタンブール	15:25	成田	8:30+1

羽田-イスタンブール

運行日	便名	出発地	出発時刻	到着地	到着時刻
毎日	TK199	羽田	21:55	イスタンブール	05:10+1
	TK198	イスタンブール	02:00	羽田	19:20

関西-イスタンブール *12月4日からは月・水・木・金・土曜日運航

運行日	便名	出発地	出発時刻	到着地	到着時刻
毎日*	TK087	関西	21:55	イスタンブール	05:00+1
	TK086	イスタンブール	02:15	関西	18:55

時間はすべて現地時間 / 運航スケジュールは予告なく変更される場合があります +1:翌日着

ベスト・エアライン・イン・ヨーロッパを2024年も受賞



2023年に引き続き
「ベスト・エアライン・イン・ヨーロッパ」を受賞

ターキッシュ エアラインズは英国のスカイトラックス社が実施した「2024年ワールド・エアライン・アワード」においてヨーロッパ最高の航空会社に贈られる「ベスト・エアライン・イン・ヨーロッパ」を受賞した。同アワードの獲得は通算で9回目となった。

今回はスカイトラックス社が実施した独自の調査結果に基づき、ベスト・エアライン・イン・ヨーロッパだけでなく、「世界最高のビジネスクラス・ケータリング」「南ヨーロッパにおけるベストエアライン」など合計7部門においても最優秀賞を受賞している。

豊富な機内プロダクトと 充実した機内食が旅を盛り上げる

ターキッシュ エアラインズの日本路線ではビジネスクラス・エコノミークラスともに充実した装備を用意し、快適な空の旅を実現する。

このうち、成田線、関西線に投入しているボーイング787-9(ドリームライナー)は同社の最新機材の1つだ。

ビジネスクラスは1-2-1の座席配列を実現。すべての座席において容易に通路にアクセスすることができるとともに、座席はシェルタイプとなっており、前後の座席を干渉することなくフルフラットのリクライニングを実現することが可能だ。

このほか、収納スペースや幅広のカクテルテーブルを用意するほか、エンターテインメントシステムは18インチの大型HD液晶画面や高性能ヘッドホンを用意するなどラグジュアリーな空間を実現している。

エコノミークラスは約15cmのリクライニングと約78cmのレッグルームというゆとりある空間を実現。充実の設備でより快適な空の旅を実現する。

加えて、機内での滞在を彩るのが機内食だ。フライト中にトルコの雰囲気を出すためにトルコ産の食材を活用して、トルコの伝統料理と世界の多彩な料理を豊富なドリンクセレクションとともに提供しているのが大きな特徴となっている。日本路線ではもちろん和食を選ぶこともできる。さらに食器などにはプラスチックや包装廃棄物の削減を行うなど、サステナビリティにも配慮しながら高品質なサービスを提供する。

ビジネスクラス



※路線によって機材を変更する場合があります

エコノミークラス



※路線によって機材を変更する場合があります

法人向けプログラム「Turkish Airlines Corporate Club」

日本からどこへ行くのにも使い勝手のよいターキッシュ エアラインズは、旅行者に加えて出張者にも人気のエアラインだ。その理由として、広大なネットワークや高品質なサービスとあわせて、日本でも多くの企業から注目されている法人契約プログラム「Turkish Airlines Corporate Club(ターキッシュ・エアラインズ・コーポレート・クラブ)」の存在が挙げられる。

同プログラムは、出張や赴任の際の航空券が割引になるだけでなく、出張にはつきものである日程変更や目的地変更にも柔軟に対応可能となる。各種手数料や無料受託手荷物の優遇もあり、ヨーロッパ、アフリカ、南米、中央アジア、中東への出張が多い企業から人気を博している。

このプログラムは、業務渡航取り扱い旅行会社経由での契約が基本となるため、日ごろから出張手配を依頼している旅行会社に確認するのがおすすめだ。

*ターキッシュ エアラインズが就航している各地への年間航空券支出が1,000万円以上の法人が対象



乗り継ぎ時に イスタンブールを楽しむ 多彩なプログラムを用意

ターキッシュ エアラインズは日本から世界各地へスムーズにアクセスすることが可能だ。その経由地となるイスタンブールも世界有数の観光都市で思わず立ち寄りたくなるスポットが豊富だ。そうした中で同社は乗り継ぎ時にイスタンブールの魅力に触れることができるプログラムを用意している。

■ ストップオーバー・イスタンブール

ストップオーバー・イスタンブールは、日本発着の往復航空券でヨーロッパ、中東、アフリカへイスタンブールを経由して渡航する旅客が、イスタンブールに20時間以上滞在する場合に、イスタンブールの宿泊施設を無料で提供するプログラムだ。

ビジネスクラス利用者には5つ星ホテル最大2泊分、エコノミークラス利用者には4つ星ホテル最大1泊分を無料で提供する。

利用可能なホテルはいずれもイスタンブールの中心街や観光地に立地しており、旅の途中で滞在してさまざまな体験をすることが可能だ。

■ ツアー・イスタンブール

ツアー・イスタンブールは、ターキッシュ エアラインズ利用者でイスタンブール空港の乗り継ぎ時間が6時間から24時間の旅行者を対象に、無料でイスタンブール市街地の観光を案内するというもの。乗り継ぎ時間に応じて毎日最大6つの異なるツアーコースを用意。イスタンブール市内の歴史的遺産や伝統料理、コースによってはクルーズなども楽しむことができる。

事前の予約などは不要でツアー申込は到着後、空港ターミナル内の「HOTEL DESK」で行う。

A STAR ALLIANCE MEMBER 

同じ空の下 バルセロナ

世界で一番多くの国へと翼を広げる私たちと



TURKISH AIRLINES

スペイン